

桐生悠々 きゆうきゆう 評論家。明治八年五月二十日石川縣生れ、昭和十六年九月十日歿（一八七三—一九四二）。本名政次 まさじ。別號悠々庵、悠々生、愈庵生、桐生悠々庵、桐生愈庵、青龍刀等。明治二十二年東京帝國大學法科大學政治學科卒。在學中小説を發表。二十五年「下野新聞」、四十二年「信濃毎日新聞」、大正二年「新愛知」各主筆歴任。昭和二年信毎に復歸し、八年の社説「關東防共大演習を嗤ふ」が筆禍となり退社。翌年名古屋で個人誌「他山の石」發刊。

著譯書 「通俗法學汎論」（本名、明治二十一年十一月十一日博文館）、「通俗百科全書」（昭和五年五月）

「簡」（明治二十二年四月二十日博文館「少年讀本」）、可關龍（本名、明治二十二年十一月二十一日博文館「世界歴史譚」）、可橋本左内（明治二十四年二月十四日博文館「少年讀本」）、可マキヤヴェリー「經世策」（本名、豊田多賀雄共譯纂、明治二十五年八月十四日普及舎）、マケス、オーレル著「婦人國」（譯、明治四十二年十月二十八日博文館）、可ズらんめ（大正二年七月十五日敬文館）、ウキリヤム・マクトガー著「新しき世界秩序の暗示」（本名、譯、大正十五年一月二十日聚芳閣學術部）、ベートランド・テツセ著「科學の未來と文明破壊の脅威」（同、譯、大正十五年十一月十日聖山閣「未來叢書」。附録ゼビ・マス・ハル



デーモン著「科學の未來と愛と生殖の分離」（昭和

和 二十七年七月二十五日二啓誌。再刊・平成元年十月十日中央公論社
「中公文庫」等。

